



今
回
の
内
容

- ❶ 入院時重症患者対応メディエーター紹介 村丸昌弘
- ❷ 診療科紹介（耳鼻咽喉科・頭頸部外科） 本多伸光
- ❸ 第153回医療連携懇話会について 名和由一郎
見逃さない悪性リンパ腫（リンパ節腫大の鑑別診断と紹介のポイント）と最新の治療（二重特異性抗体とCAR-T細胞治療）
- ❹ コラム 文句の多い医者をつぶやき 岡本賢二郎
- ❺ お知らせ（次回の医療連携懇話会のお知らせ・媛さくらネットについて・メール登録のご案内）

❶ 入院時重症患者対応メディエーターとして思うこと 患者支援室 相談員 村丸 昌弘

私は愛媛県立中央病院の患者支援室で多様な相談業務に携わっています。その一環として「入院時重症患者対応メディエーター」を担い、入院直後の緊迫した状況下でも患者や家族が安心して治療を受けられるよう、医療者との間に立って心を通わせるサポートを大切にしています。突然の救急搬送に、患者と家族は大きな不安と戸惑いに包まれます。一秒を争う現場で命と向き合う医療者との間に、どうしても張り詰めた空気が生まれます。その中で家族が発する「お任せします」という言葉には、助けてほしいという切実な願いと現実を受け止めきれない深い戸惑いが隠されていると日々感じます。

令和4年度よりこの業務に携わり、先輩方に学びながら家族の思いを医療者へ橋渡しする術を模索し続けてきました。どんなに切迫した現場でも、医療者と患者・家族の「対話の架け橋」となれるよう努めてまいります。

② 診療科紹介 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任部長 本多 伸光

地域医療連携施設の先生方におきましては、いつも多くの患者様を紹介いただき有難うございます。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の扱う領域は文字通りみみ、はな、のどはもとより、頭蓋底から鎖骨上窩と上縦隔に至るまで解剖学的に非常に幅広く、また取り扱う疾病や治療法においても多岐にわたります。感染・炎症性疾患や腫瘍性疾患、感覚機能障害など様々な疾患に対して外科的治療（手術）と薬物治療や放射線治療などの内科的アプローチとを使い分けて対応します。また、当科は乳幼児から高齢者まで幅広い世代の患者さんを治療します。ヒトがもつ感覚のうち、五感とは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の5つの感覚のことを意味しており、ヒトが古くから外界の状態を素早く察知したり、生活を豊かにして幸せを感じるために大切な機能とされてきました。そういった人がヒトらしく生きるうえで大切な五感をつかさどる主要な感覚臓器を扱う診療科であります。

今回は最近の耳鼻咽喉科医療における治療トレンドについてご紹介させていただきます。まず手術においては、以前より耳科手術、鼻科手術において顕微鏡や内視鏡手術が取り入れられていましたが、最近では光学医療機器の開発が急速に進歩し、高性能手術顕微鏡、4K内視鏡、4K外視鏡、先端可動式硬製内視鏡、手術用ナビゲーションシステムなど多くのデバイスが耳鼻咽喉科・頭頸部外科手術に取り入れられています。当院では最新の医療技術や術式を積極的に導入して標準術式に取り入れることによって、より低侵襲な術（minimally invasive surgery）を確立し、手術合併症の回避や手術侵襲を軽減することを目指しています。

進行頭頸部がんの薬物治療においては、これまでの殺細胞性抗がん剤に加えて、分子標的薬（セツキシマブなど）や、がん免疫治療薬（抗PD-L1抗体治療薬、ニボルマブ ペンブロリズマブなど）が標準治療として取り入れられ、これまでは治療不能であった進行がんに対する治療選択が増えてきております。また、以前より当院で放射線科協力のもとに取り組みを続けている超進行上顎洞癌や切除不能進行舌癌に対する放射線併用超選択動注化学療法は、愛媛県内では当院でのみ可能な頭頸部がん治療として、外観の醜形や組織欠損を避けたいうえで高い抗がん効果が期待できる治療法であります。当科では緩和医療専門医、リハビリテーション部や専任看護師、薬剤師など多職種で構成されるチーム医療を推進しており、手術療法、放射線療法、化学療法を実施する際に、早期からのリハビリテーションや口腔ケア、栄養管理や疼痛緩和などの補助療法を駆使した集学的治療をおこなうことにより、患者さんの生命予後改善と治療による生活の質低下予防に努めています。

当科は耳鼻咽喉科専門医4名（うち耳科手術指導医1名、頭頸部がん専門医1名、補聴器相談医4名など）と専攻医2名の合計6名のスタッフで診療しており、愛媛県の耳鼻咽喉科地域医療に貢献できるように努力していきます。今後とも愛媛県立中央病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科をよろしく願います。

③ 第153回医療連携懇話会について

見逃さない悪性リンパ腫（リンパ節腫大の鑑別診断と紹介のポイント）と
最新の治療（二重特異性抗体とCAR-T細胞治療）

がん治療センター長 名和 由一郎

今回の医療連携懇話会では、地域医療におけるリンパ節腫大への初期対応から、悪性リンパ腫診療の実際、さらにCAR-T細胞療法に代表される最新治療まで、愛媛県立中央病院血液内科が提供する診療の全体像が共有された。愛媛県のがん登録から悪性リンパ腫は年間約400人新規に発生しており、そのうち約3分の1を当院が診療している。3演題は、かかりつけ医と基幹病院がどのように連携し、患者に最適な診療を届けるかを具体的に示す内容であった。

第一演題では、日常診療で遭遇するリンパ節腫大の評価について解説された。リンパ節腫大は「1cm以上」「1.5cm以上」など明確な定義がなく、臨床所見のみで良悪性を判断することは困難である。年齢、LDH、sIL-2Rなどが悪性リンパ腫で高値となる傾向はあるものの、決定打にはならず、生検が確定診断の鍵であることが強調された。鑑別には、感染症（伝染性単核球症、結核、梅毒）、自己免疫疾患、壊死性リンパ節炎、悪性リンパ腫、癌の転移など多岐にわたる疾患が含まれる。特に梅毒性リンパ節炎や壊死性リンパ節炎は近年重要性が増しており、自然軽快する場合もあるため、経過観察と再検査の判断が重要となる。迷う場合には早期に専門科へ紹介してほしいと呼びかけられた。

第二演題では、紹介後に愛媛県立中央病院で行われるリンパ腫診療の流れが示された。診断には生検による組織診断、PET CT、骨髄検査などを用い、病期評価と臓器機能、患者背景を総合して治療方針を決定する。悪性リンパ腫は80～90種類に分類され、進行速度や悪性度に応じて治療が大きく異なる。特にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）は進行が速く、近年はPola-R-CHP療法が標準治療として普及しつつある。POLARIX試験ではR-CHOPに比べ無増悪生存期間が改善し、初回治療の選択肢が広がった。また再発・難治例に対してはMosun-Polaなど二重特異性抗体と抗体薬物複合体を組み合わせた新規治療が登場し、救済化学療法より良好な成績が示されている。治療中は感染症や生活習慣病の管理において、かかりつけ医との連携が不可欠であることが強調された。

第三演題では、CAR-T細胞療法の最新状況が紹介された。CAR-Tは患者自身のT細胞に腫瘍特異的受容体を導入し、体内で腫瘍を攻撃させる革新的治療である。DLBCLの治療抵抗性や早期再発例は予後不良であるが、CAR-Tはこれらの患者に新たな治療機会を提供する。日本では複数のCAR-T製剤が承認されており、対象疾患や薬価、特徴が整理された。製造には4～5週間を要し、その間の病勢コントロールが重要となる。副作用としてCRS（サイトカイン放出症候群）やICANS（神経毒性）があり、適切なモニタリングと治療が必要であるが、管理が安定すれば2～4週間で退院可能である。CAR-Tは難治性リンパ腫治療の大きな転換点となっており、今後適応拡大が期待される一方、医療コストの課題も指摘された。現在まで当院で4例施行していることが報告された。

総じて、リンパ節腫大の初期対応から高度治療まで、地域医療と基幹病院が連携することで、患者に最適な診療を提供できることが示された。かかりつけ医が迷った段階で早期に相談・紹介することが、診断の遅れを防ぎ、治療成績向上につながる点が強調された。



④ いつも心折れる医者が心折れなかったスパルタ人の話をする

腎糖尿病センター長 岡本 賢二郎

エーゲ海南岸にテルモピュライという峠がある。ここに建つ古代石碑には2500年前の戦死者を悼み称える詩が刻まれている。

通り過ぎ行く 見知らぬ旅人よ スパルタを通れば 伝えてほしい 我らは スパルタの掟に従いそして この地で逝ったことを

BC480年ペルシアが20万の大軍でギリシアに侵攻し、ペルシア戦争が勃発した。スパルタ王レオニダスは300人を率い、ギリシア連合軍7,000人と共にテルモピュライ峠で迎え撃つが、圧倒的兵力差の中でギリシア連合軍は撤退を余儀なくされる。しかしレオニダスと300人のスパルタ兵は最期まで残り、戦った。この戦いは歴史スペクタクル映画『300』¹の題材にもなり、映画が「ペルシア人を侮辱している」とイラン政府がハリウッドに抗議したことで話題になった。

スパルタはギリシア世界でも際立つ軍事都市国家だった。男子は7歳から強制的に家を出され、テントでの集団生活を課される。12歳からは本格的な肉体トレーニングが始まり、贅肉があれば鞭でしばかれたという。「スパルタ教育」が厳しい教育の代名詞になった所以（ゆえん）だ。その結果、スパルタ兵は「一人が十人に匹敵する」とまで称された。そんな彼らが、テルモピュライでいかに戦ったのか。映画での圧倒的な強さを見れば、イランが脚色にクレームをつけたくなる気持ちも理解できる。しかし、その強さはヘロドトスが『歴史』²に記述し、史実として歴史に残った。

ところが現代ではスパルタ教育は時代にマッチしないとされる。厳しさがハラスメントと認識され心折れるためだ。では、なぜスパルタ人は心が折れなかったのだろうか？ ヒントは肉体的トレーニングが開始される12歳以前にありそうだ。前述のようにスパルタ男子は7歳から衣食住24時間一緒のテント生活だ。12歳までの5年間、共助友愛の共同生活の中では兄弟愛、師弟愛が醸成され、そこで築かれた関係性は「同じ釜の飯を食った仲」「同期の桜」などと言われるような特別なものとなるだろう。つまり、スパルタ教育は「心理的安全性」という強固な基盤の上に成り立っていた、と推察できる。新人には研修よりも愛情を注ぎ、周囲との関係性が構築され目指す方向性が共有できたら、厳しいトレーニングを課す。これが心折れないスパルタ教育の本質かと思う。心理的安全性や共助を伴うトレーニングがレジリエンス³の強化に有効である事は現代のコーチング理論でも広く認められているところだ。

しかし現実には簡単ではない。限られた時間の中で部下との心理的安全性を備えた関係性の構築がいかに困難か、人間力が問われる局面だ。「早く戦力にしないと仕事にならん」「Z世代と古代スパルタ人は違う」等の反論も聞こえてきそう。しかし人間の潜在能力を引き出す鍵となる『安心して挑戦できる環境』の基盤には、安定した人間関係が不可欠であること、この原則を上司やメンターがしっかりと認識することから、レジリエンスを備えたチーム造りが始まり、そしてそれはやがて危機に強く持続可能な組織の構築へと繋がっていくのではないかな。

テルモピュライの戦いで時間稼ぎができたギリシアは態勢を立て直し、その後サラミスの海戦で逆転大勝利しペルシア戦争は収束に向かった。我々もスパルタに学び、組織の内部崩壊を食い止め、再建への舵を切りたいものだ。



¹ 300 〈スリーハンドレッド〉は、2006年のアメリカ合衆国の歴史アクション映画。フランク・ミラー原作のグラフィックノベル『300』を元にペルシア戦争のテルモピュライの戦いを描いた作品。ペルシア人を冒涜しているとイラン政府が批判しそれに対しハリウッドが「エンタメだ」と答えた事でも話題となった。続編「300〜帝国の進撃〜」はテルモピュライの戦い後のサラミスの海戦を題材としたもの。 Wikipedia改

² ヘロドトス『歴史』巻七 211節 松平千秋訳 岩波文庫（下）

³ レジリエンスは、「回復力」や「弾力性」を意味する。心理学ではストレスを受けたときの「精神的回復力」を意味し、同じようなストレスを受けた際にPTSDになる人とならない人の差は、レジリエンスの違いにより発生するとされる。レジリエンスが高い人は困難な問題や危機的な状況に直面しても回復力適応能力が高いとされる

⑤ 次回の医療連携懇話会のお知らせ

第154回 医療連携懇話会

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

日時 令和 8 年 11 月 11 日 (水) 19:00~20:00 場所 愛媛県立中央病院 講堂

テーマ 『地域で支える心不全診療 – 再入院予防をめざした新たな地域連携 –』

座長 副院長 岡山 英樹

講演 「地域で診る慢性心不全 – 最新薬物治療と地域連携 –」 循環器内科 主任部長 日浅 豪
「心不全を、その上流から防ぐ – 腎デナビーションが拓く難治性高血圧治療 –」

循環器内科 医長 城戸 信輔

「心不全管理における心房細動治療の重要性 – パルスフィールドアブレーションという新たな選択肢 –」

循環器内科 医師 黒光 貴俊

「心不全患者さんの再入院予防へ向けた当院での取り組み – 地域との連携を目指して –」

慢性心不全看護認定看護師 重川 みか

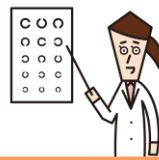
お申し込み方法 ホームページの申し込みフォームからお申し込みいただけます。

★当日のご参加も可能です(フォームからのお申し込みは、懇話会開催前々日の午前10時まで)

第155回 医療連携懇話会

日時 令和 9 年 1 月 13 日 (水) 19:00~20:00 予定

場所 愛媛県立中央病院 講堂 診療科 眼科



地域医療連携 ネットワークサービス

媛さくらネット

Information

アレルギー情報へのアクセスが簡単になりました!

<現在閲覧できる項目>

- ・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリ・画像(放射線、エコー、生理検査)
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート (退院時サマリは2023年4月1日以降の情報となります)

メリット
いっぱい

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

次号の地域連携室便り 次回12月号は、2026年12月下旬頃刊行の予定です。お楽しみに!

メール登録のご案内

各種ご案内やお知らせをメールで受け取れます。動画視聴のみを希望される医療機関関係者のご登録も受け付けております!

◆方法① ・下記の地域医療連携室のメールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録(医療機関名) <本文> 医療機関住所、電話番号

<動画視聴のみのご希望の場合> 「限定公開動画のみ」と記載をお願いします

地域医療連携室メールアドレス: c-renkei@eph.pref.ehime.jp

◆方法② ・本用紙でのお申し込み

キ リ ト リ



・愛媛県立中央病院 地域医療連携室に下記の登録をいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

<動画視聴のみのご希望の場合> ☐ 限定公開動画のみ希望 (チェックをお願いします)

<メールアドレス> _____ @ _____

ご記入いただきました個人情報は、必要なセキュリティ対策を講じ、厳重に管理し、メール送信の目的にのみ利用させていただきます。